

家庭における調理の簡便化に関わる要因

新 沢 祥 恵

1. は じ め に

近年の社会環境の変化は食生活の変容も余儀なくしているが、この食生活の変容をもたらしている要因についてはいくつか挙げられる。

前報⁽¹⁾でも述べたように、世帯人員の減少・女子の就労率の増加や価値観の変化は、調理担当者の問題として、直接に家庭内の調理簡便化傾向をもたらした。一方、家庭内における個々の家族の生活、すなわちライフスタイルの変化にも無視できないものがある。

従来我々の生活は、朝起きて、昼は働き（或いは勉強）夜は眠るというパターンの中で、外での活動以外の家庭での時間は概ね共通であり、その中で、3食の食事の時間も限定され、共有のものであった。しかし、最近は深夜営業或いは24時間営業なども珍しくなくなり、多くの業種で労働形態が多様化していることや、モータリゼーションの発達は公共の交通機関にとらわれることなく、行動範囲や時間を広げることになり、通勤圏の拡大も生活時間の拡散をもたらした。

この問題は大人のみならず、子供にもあてはまり、クラブ活動が活発になり、塾通いの増加で子供の生活時間にも大きな変化がみられるところである。

さらに、個人の生活を尊重するという考え方は、家族間の生活時間の共有化を強制せず、それぞれが、自由に過ごすことが許されるようになってきた。⁽²⁾

近年『個食－弧食』という言葉が話題になっている。^{(3)~(6)} 国民栄養調査^{(7)~(9)}でも子供の食事形態が取り上げられ、子供だけで食事をするものが増加しているということ、また、平成4年度の国民栄養調査では3日間の調査期間中、食事に家族が一度も揃わなかったものが、朝食で46.2%、夕食でも28.2%を占めていることが報告されている。⁽¹⁰⁾

今日、生活水準が向上するに伴い、貧しい食生活による栄養不足といわれるものは殆どみられなくなったが、多くの食物、或いは多様な食べ方の中から選択することが可能になる中で、誤った選択による栄養の偏りや食形式など新たに多くの問題が提起されている。

前報では家庭における調理簡便化の実態について検討を行ったが、本報では、調理担当者の食・健康や調理に対する意識や態度をはじめとし、近年話題となっている家庭の食事状況も取り上げ、これらの問題と調理簡便化傾向との関わりについて検討した。

新 沢 祥 恵

Ⅲ. 食事状況

1. 朝食は家族揃って食べますか。
①毎日揃って食べる ②時々揃って食べる ③揃って食べることはない
2. 夕食は家族揃って食べますか。
①毎日揃って食べる ②時々揃って食べる ③揃って食べることはない
3. 食事時間はおおよそ決っていますか。
①いつも規則的にしている ②時々不規則になる ③規則的に食事することはない
4. 食事の時、家族間に会話がありますか。
①いろいろな会話をしながら食事する ②時々会話をする ③食事の時殆ど会話がない
5. 食事の時テレビをつけていますか。
①いつもつけている ②時々つけている ③つけていない

表2 質問項目の回答数

ア イ テ ム	カ テ ゴ リ ー	世 帯 数	比 率 (%)
職業形態	農家世帯	38	12.8
	自営業世帯	68	22.9
	勤労者世帯	187	63.0
	その他	4	1.3
家族形態	核家族世帯	155	52.2
	拡大家族世帯	142	47.8
家族数	4人以下	127	42.6
	5人以上	171	57.4
主婦就業状況	無職	124	41.6
	有職	174	58.4
夕食調理時間	30分未満	9	3.1
	31～44分	89	30.5
	45～59分	27	9.2
	60分以上	167	57.2
台所形式	K式	114	38.9
	DK式	153	52.2
	LDK式	26	8.9
食健康への関心	関心あり	210	70.7
	少し関心あり	84	28.3
	関心なし	3	1.0
献立重視傾向	栄養重視	108	36.5
	嗜好重視	173	58.4
	どちらも考えぬ	15	5.1
献立の計画性	常に計画	29	9.8
	時々計画	105	35.4
	計画なし	163	54.9
献立の工夫	常に工夫	81	27.3
	特に工夫	182	61.3
	工夫しない	34	11.4
料理情報への関心	常に関心	115	38.7
	時々関心	170	57.2
	関心しない	12	4.0

ア イ テ ム	カ テ ゴ リ ー	世 帯 数	比 率 (%)
盛付方法	1人盛り多い	165	55.6
	大皿盛り多い	46	15.5
	半々位	86	29.0
衛生への配慮	常に配慮	190	64.0
	時々配慮	100	33.7
	配慮しない	7	2.4
食器への配慮	常に配慮	90	30.3
	時々配慮	172	57.9
	配慮しない	35	11.8
料理伝承への配慮	常に配慮	40	13.5
	時々配慮	180	60.6
	配慮しない	77	25.9
伝統料理への興味	常に興味	31	10.4
	時々興味	199	67.0
	興味なし	67	22.6
朝食状況	毎日揃う	61	20.7
	時々揃う	102	34.6
	揃わない	132	44.7
夕食状況	毎日揃う	115	38.7
	時々揃う	154	51.9
	揃わない	28	9.4
食事時間	常に規則的	139	47.0
	時々不規則	134	45.3
	常に不規則	23	7.8
食事中会話の有無	会話多い	182	61.3
	時々会話	102	34.3
	会話なし	13	4.4
食事時テレビの有無	常につける	187	63.0
	時々つける	66	22.2
	つけない	44	14.8

2. 研 究 方 法

2.1. 調査対象、調査時期、調査方法

前報のとおり。

2.2. 調査内容

前報で検討した内容の他に、世帯状況、調理担当者の調理・食・健康への意識や態度、家庭の食事状況などについて表1のように質問した。この調理担当者の調理・食・健康への意識や態度については、一部村松氏の食欲・嗜好および料理のセンスと検査¹⁰⁾を参考に質問項目を作成した。

尚、世帯状況、調理担当者の調理・食・健康への意識や態度、家庭の食事状況の回答を表2に示した。

表1 家庭の調理実態に関する質問事項

I. 家庭状況

1. 職業形態

- ①農家世帯 ②自営業世帯 ③勤労者世帯 ④その他

2. 家族形態

- ①核家族世帯 ②拡大家族世帯

3. 家族数

- ①家族数4人以下 ②家族数5人以上

4. 主婦就業状況

- ①無職 ②有職

5. 夕食の調理時間

- ①30分未満 ②30～44分 ③45～59分 ④60分以上

6. 台所形式

- ①K式 ②DK式 ③LDK式

II. 調理担当者の意識

1. 食生活と健康について関心がありますか。

- ①関心がある ②少し関心がある ③関心はない

2. 献立をたてる時、栄養面と家族の嗜好のどちらを重視しますか。

- ①栄養 ②家族の嗜好 ③どちらも考えない

3. 計画的に献立をたてていますか。

- ①いつも計画をたてている ②ときにたてる ③殆どたてない

4. 献立の変化について、いつも工夫していますか。

- ①いつも工夫している ②ときに工夫する ③殆ど工夫しない

5. 料理について、テレビ・料理書・雑誌などに関心を持っていますか。

- ①常に関心がある ②時々関心を持つ ③殆ど関心がない

6. 料理は1人分ずつ盛りつける場合と大皿盛りで食卓で取り分ける場合のどちらが多いですか。

- ①1人盛りが多い ②大皿盛りが多い ③半々位

7. 食器や台所の衛生にいつも配慮していますか。

- ①いつも気を配り清潔にしている ②ときにする ③殆ど気を配らない

8. 食器に関心を持ち、盛りつけに際し食器の選択に配慮していますか。

- ①いつも配慮している ②時々配慮する ③殆ど配慮しない

9. 母親や姑などから教えられた料理を日々の食生活に取り入れ、子供達に伝えていくようにしていますか。

- ①いつも配慮している ②時々配慮している ③殆どしていない

10. 郷土料理や伝統的な料理に興味があり、日々の食生活に取り入れるようにしていますか。

- ①常に興味を持ち、取入れるようにしている ②時々している ③殆ど興味がない

2.3. 検討事項

- (1) 調理済み食品や惣菜の利用状況と世帯状況・調理担当者の意識や態度・家庭の食事状況の関連。
- (2) 各料理（27品目）の手作り状況と世帯状況・調理担当者の意識や態度・家庭の食事状況の関連。
- (3) 各家庭の手作り率*と世帯状況・調理担当者の意識や態度・家庭の食事状況の関連。
- (4) 各家庭の手作り率に及ぼす要因

*各料理について、「必ず手作りする」と「殆ど手作りする」を手作りとして、各世帯毎に調査料理27品目の内で献立に殆ど出現しない料理を除き、手作りするものの比率を求め、各家庭の手作り率とした。

3、結 果 と 考 察

3.1. 調理済み食品や惣菜の利用状況に関わる要因

調理済み食品や惣菜の利用状況と世帯状況・調理担当者の意識や態度・家庭の食事状況の回答をクロス集計し、カイ2乗検定による有意差の有無を表3に示した。

表3 調理済食品等や惣菜利用状況と家庭状況・調理意識等との関連

			* p < 0.05			** p < 0.01			*** p < 0.001		
	調理済 食利用	総 菜 利 用		調理済 食利用	総 菜 利 用		調理済 食利用	総 菜 利 用		調理済 食利用	総 菜 利 用
職 業 形 態		***	献立重視傾向			料理伝承への配慮	*	**			
家 族 形 態			献立の計画性		*	伝統料理への興味					
家 族 数			献立の工夫			朝食状況	*	*			
主婦就業状況		**	料理情報への関心			夕食状況					
夕食調理時間		**	盛付方法			食事時間	**				
台 所 形 式	*		衛生への配慮			食事中会話の有無					
食健康への関心			食器への配慮	*		食事時テレビの有無					

3.1.1. 調理済み食品・半調理食品の利用との関連

調理済み食品・半調理食品の利用頻度と関連がみられたのは「台所形式」（ $p < 0.05$ ）

「食器への配慮」（ $p < 0.05$ ）「料理伝承への配慮」（ $p < 0.05$ ）「朝食状況」（ $p < 0.05$ ）

「食事時間」（ $p < 0.01$ ）である。

図1は「朝食状況」との関連をみたものであるが、毎日揃って食べる世帯では使わない或いは使っても頻度の低い世帯が多く、揃わない世帯では使う頻度が高く、週1回以上使うが7割近くとなっている。「食事時間」との関連（図2）でも、食事が規則的である世帯ほど使用頻度は低く、常に不規則という世帯では週1回以上使う世帯が8割近くを占めていた。尚、「台所形式」

家庭における調理の簡便化に関わる要因

ではK式の世帯で使用頻度が低く、LDK世帯では多くなり、「盛付への配慮」では配慮している世帯ほど、「料理の伝承」では伝承に熱心な世帯ほど使用頻度の低い世帯の比率が多くなっていた。

図1 調理剤食品等利用状況と朝食状況

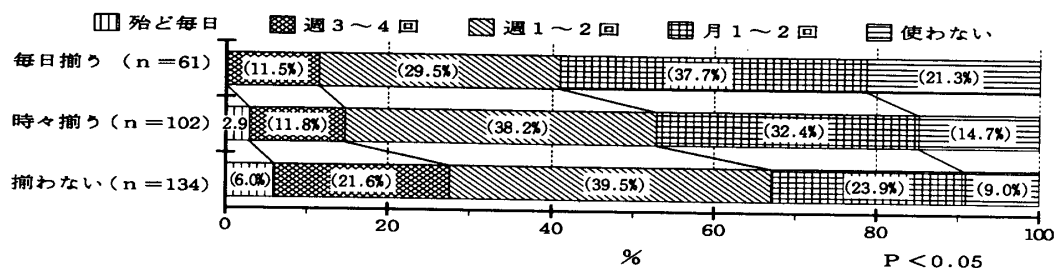
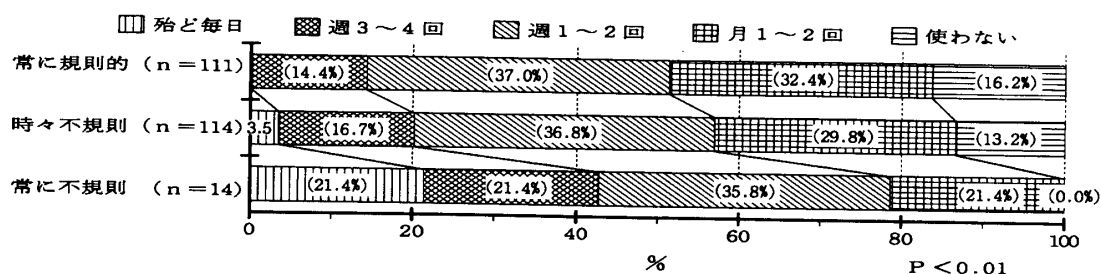


図2 調理剤食品等利用状況と食事時間

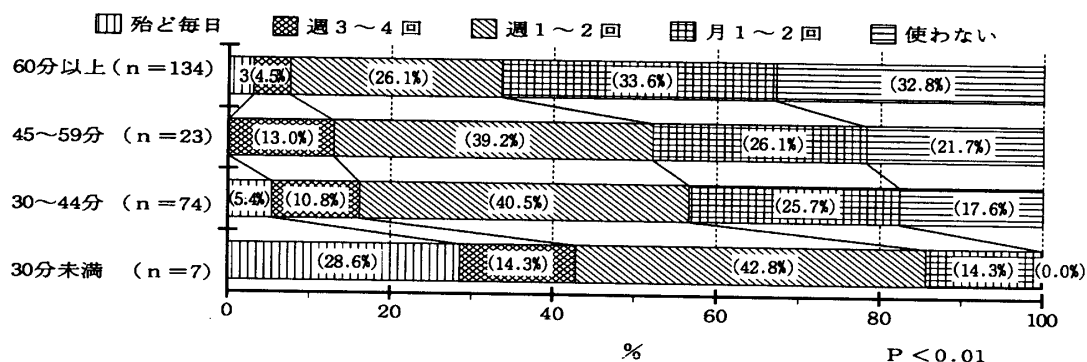


3.1.2.惣菜の利用との関連

惣菜の利用状況と関連がみられたのは「家庭の職業形態」 ($p < 0.001$) 「主婦の就業状況」 ($p < 0.01$) 「夕食の調理時間」 ($p < 0.01$) 「献立の計画性」 ($p < 0.05$) 「料理伝承への配慮」 ($p < 0.01$) 「朝食状況」 ($p < 0.05$) である。

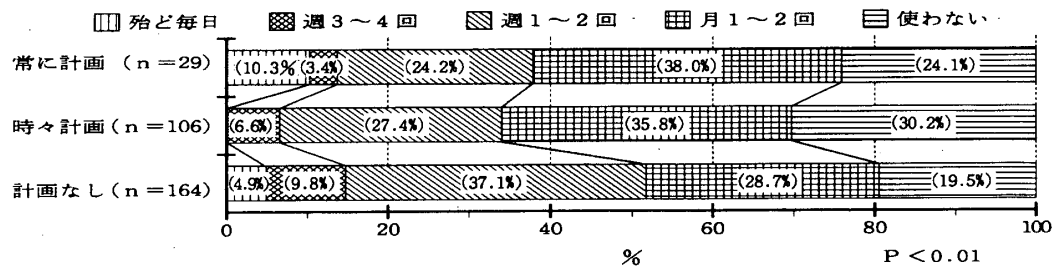
図3は夕食の調理時間との関連をみたものであるが、30分未満では使わない世帯は殆どないのに対し、60分以上では殆ど毎日使う世帯は極僅かであり、使わないという世帯が3割を占めていた。この他、「家庭の職業形態」では自営業世帯で使う頻度が高く、「主婦の就業状況」では有職主婦の使用頻度が高く、「献立を計画性」では献立を殆ど立てていない世帯でよく使われていた。また、「料理の伝承」ではこれに熱心な世帯で使頻度が低く、「朝食状況」ではいつも揃って食事をしない世帯でよく使われる傾向にあった。

図3 惣菜利用状況と夕食調理時間



新 沢 祥 恵

図4 惣菜利用状況と献立の計画性



3.2. 各料理の手作り状況に関わる要因

各料理における調理済み食品等の利用状況と家庭状況、調理担当者の食や健康・調理に対する意識や態度、家族の食事状況との関わりについて検討した。それぞれの回答カテゴリーをクロス集計し、カイ2乗検定による有意差の有無を表4に示した。

表4 各料理の手作り状況と家庭状況・調理担当者の意識態度・食事状況との関連

*p<0.05 **p<0.01

	手作率① (%)	頻度② (%)	職業 形態	家族 形態	家族 数	主婦 就業	調理 時間	台所 形式	健康 関心	献立 重視	献立 計画	献立 工夫	料理 情報	盛り 付け	衛生 注意	食器 配慮	料理 伝承	伝統 料理	朝食 状況	夕食 状況	食事 時間	食事 会話	食事 テレビ
焼 魚	93.3	98.6						*				*	**			*				*	**		
カレーライス	94.9	88.2					*												*	**			
きんぴらごぼう	91.1	64.5					*							*							*		
芋 サラダ	88.5	81.9					*				*	**		*						*	**		
鶏の唐揚げ	84.5	73.5	*													*	**						
いなりうどん	84.3	55.3	**	**					*		*					*				*			
とんかつ	83.6	70.8					*		*		*										*		
茶碗蒸し	83.4	47.6					*		*		*									*			
ハンバーグ	80.0	70.5										**						*	*				
海老フライ	72.4	58.1					*												*				
サンドイッチ	70.9	45.6				**		*			**				*	**	*	**	**	*	**	*	*
いなりずし	57.1	24.5				**		*			**						*		**				
グラタン	54.3	31.8				*					*	**	**										
赤 飯	52.0	3.7	**	*	*							*						*		*			
巻 ずし	45.7	26.8		*	*						*				*	**	*				*		
ミートソース	42.1	34.5				**	**				*			*									
芋 コロッケ	36.7	66.4				*	**									*					**		
フライドポテト	33.7	42.6				*		*											**				
昆 布 巻	33.5	25.9		*	*			*												*			*
ぎ ょ う ざ	31.2	66.1	**			**													**				
焼 鳥	22.2	34.9				*			*	*			*									*	
焼 豚	20.2	32.2	*			*			*	*			*			*			*				*
クリームコロッケ	14.1	37.6				*		*				*				*			*				
にぎりずし	13.2	23.8				*										**	*						
ピザパイ	11.4	17.4		*							*				*		**						
卵 豆 腐	5.4	19.5				**					**	**			**			*					
しゅうまい	2.9	34.2	*			*												*					*

①「必ず手作り」「殆ど手作り」の比率 ②「週1回以上」「月1~3回」の比率

3.2.1.各料理の手作り状況と家庭状況との関連

家庭状況で、比較的多くの料理と関連のみられたのは「主婦の就業状況」と「夕食の調理時間」であり、専業主婦や調理時間の長い世帯で手作りが多くなっていた。このうち、「主婦の就業状況」で有意差がみられたものは、卵豆腐・ぎょうざ・ミートソース・焼豚・グラタンなど、手作り度の低い料理で献立出現頻度も少ない料理であった。一般に調理済み品への依存が高い料理では、時間的余裕があると考えられる専業主婦に手作りする傾向が伺えるようである。また、「夕食の調理時間」ではカレーライス・芋サラダ・芋コロッケ・きんぴらごぼうなど献立出現頻度の高い料理、あるいは一般に手作り度の高い料理と関連がみられ、調理時間の短い世帯では、日常的に調理済み品を利用していることが伺えた。

3.2.2.各料理の手作り状況と調理担当者の意識・態度との関連

調理担当者の意識との関連をみると、当然のことながら「献立の工夫」と「料理伝承への配慮」で比較的多くの料理と関連がみられた。しかし「食・健康への関心の有無」「献立重視傾向」とは関連のみられる料理少なくなっている。近年、食・健康に関する情報が多く氾濫し、本やテレビなどでも頻繁にこれらの話題が取り上げられている。本調査においても、食は健康に関心がないというものは極めて少なく、殆どが何らかの関心を示しているところである。しかし、本学学生の調理実態に関する調査⁽¹²⁾でも、食への関心が実際の調理に結びつかないことを示していたが、実際に家庭の調理に携わるものにおいても、個々の料理との関連でみる限りは、食・健康への関心は必ずしも調理の実践には結びついてはいないようであった。

3.2.3.各料理の手作り状況と食事状況との関連

食事状況に関する項目についてみると「食事時テレビの有無」を除いては、それぞれ関連のみられる料理が多く、「朝食状況」ではサンドイッチなど5品目と、「夕食状況」ではぎょうざなど7品目と有意差がみられ、「食事時間」ではカレーライスなど8品目と「食事中会話の有無」では焼魚など7品目の料理と比較的多くの料理と関連がみられた。すなわち、食事時間が規則的で、家族揃って食事をし、食事中に会話の多い世帯ほど、手作りの度合いが高くなっており、家庭の食事形式、ひいては家族それぞれのライフスタイルとの関連も無視できないと思われる。

3.3.各家庭の手作り状況に関わる要因

各家庭の手作り率を平均（51.4%）より高い世帯と低い世帯に分け、家庭状況や調理担当者の意識や態度・食事状況との関連について検討した。表5に前と同様にカイ2乗検定による有意差の有無を示した。有意差のみられた項目は「台所形式」（ $p < 0.05$ ）「食・健康への関心の有無」（ $p < 0.01$ ）「献立重視傾向」（ $p < 0.05$ ）「衛生への配慮」（ $p < 0.05$ ）「料理伝承への配慮」（ $p < 0.01$ ）「伝統料理への興味」（ $p < 0.05$ ）「朝食状況」（ $p < 0.05$ ）「食事中会話の有無」（ $p < 0.01$ ）「食事中テレビの有無」（ $p < 0.05$ ）である。

新 沢 祥 恵

表5 手作状況と家庭状況・調理意識等との関連

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

職 業 形 態		献 立 重 視 傾 向	*	料 理 伝 承 へ の 配 慮	**
家 庭 形 態		献 立 の 計 画 性		伝 統 料 理 へ の 興 味	*
家 族 数		献 立 の 工 夫		朝 食 状 況	*
主 婦 就 業 状 況		料 理 情 報 へ の 関 心		夕 食 状 況	
夕 食 調 理 時 間		盛 付 方 法		食 事 時 間	
台 所 形 式	*	衛 生 へ の 配 慮	*	食 事 中 会 話 の 有 無	**
食 健 康 へ の 関 心	**	食 器 へ の 配 慮		食 事 時 テレビ の 有 無	*

3.3.1. 手作り状況と家庭状況との関連

図5は手作り率と家族形態との関連を示したものである。図のように手作り率の低い世帯で核家族世帯がやや多くみられるものの有意差はなかった。また、図6は主婦の就業状況との関連を示してあるが、手作り率の低い世帯の方が高い世帯に比べて主婦が有職の世帯が少ないものの、家族形態の場合と同様に有意差はみられなかった。この他職業形態や夕食の調理時間についても手作り率による明確な差はみられなかった。

図5 手作り状況と家族形態

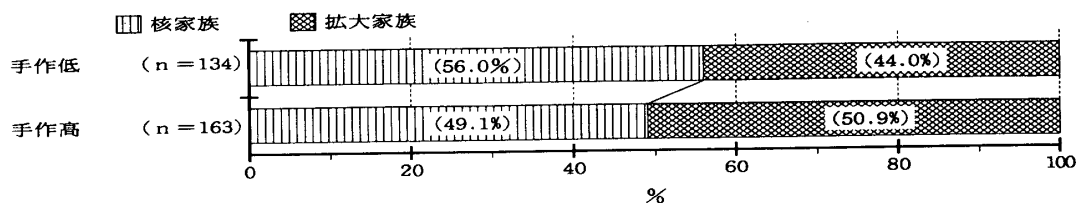


図6 手作り状況と主婦の就業状況

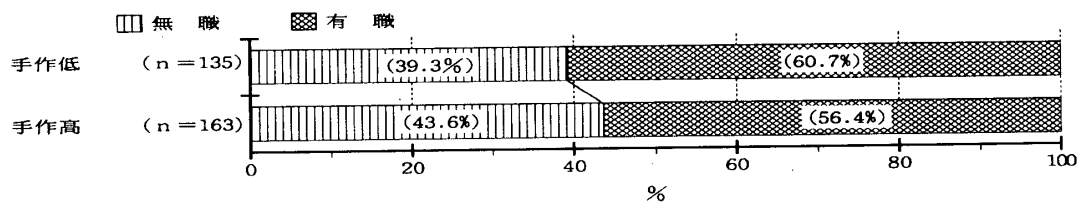
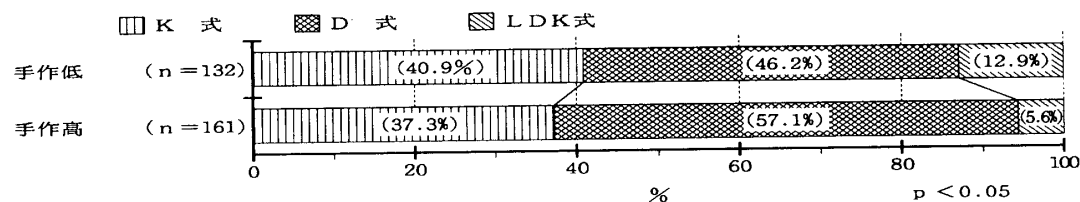


図7 手作り状況と台所形式



尚、台所形式には有意差がみられた（図7）。手作り率の高い世帯ではDK式が多くなってい

るが、家庭における調理器具の調査⁽¹³⁾でもDK式の世帯で利用率や使用頻度が高い傾向であり、今回の調査でもDK式の世帯では調理への意欲の高いことが伺えた。一方、手作り率の低い世帯ではLDK式が多くなっているが、LDK世帯は調理済み食品や惣菜の利用も多くなっている。近年の傾向としてカウンターキッチンの流行があり⁽¹⁴⁾、調理をしながら、家族とのコミュニケーションが期待されるものであるが、調理の場が家族の団らんと同じ場になると、家族とのコミュニケーションが出来る反面、調理への関わりが少なくなるものと推察される。

3.3.2. 手作り状況と調理担当者の意識・態度との関連

次に、調理担当者の調理や健康などへの意識・態度との関連を検討した。

図8は「食・健康への意識」との関連を示したものである。手作り率の高い世帯では食や健康に多いに関心があるというものが78.5%であるのに対し、低い世帯では61.2%となっている。この他「献立をたてる時、栄養と嗜好のどちらを重視するか」という質問との関連でも手作り率の高い世帯では栄養を重視するというものの比率が多くなり、有意の差がみられた。(図9) 今回の調査では、「食・健康への関心の有無」では、殆どが関心があると回答していたが、この質問では嗜好を重視するというものが栄養を重視するものを大幅に上回っていた。しかし、手作り率の低い世帯では嗜好を重視したり、どちらも考えないというものが多くなり、栄養を重視するものでは手作りへのこだわりも多いようである。

図8 手作り状況と食健康への関心

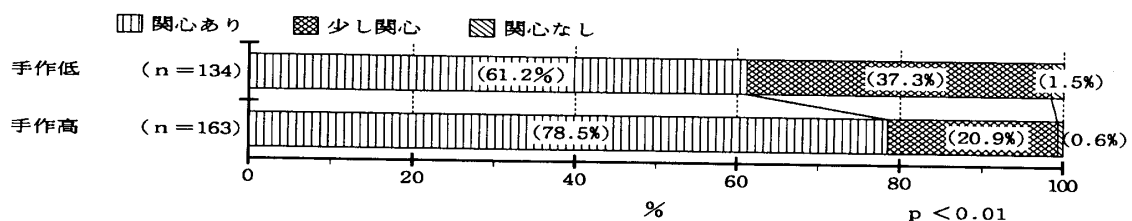
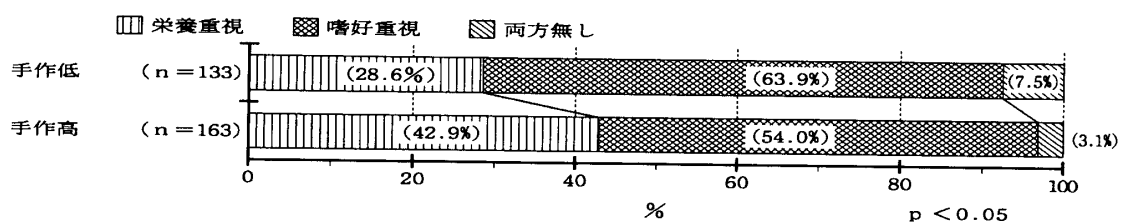


図9 手作り状況と献立重視傾向



また、「衛生に配慮しているか」との質問でも手作り率の高い世帯では常に配慮しているものが69.3%に対し、低い世帯では57.3%となり、殆ど配慮しないというものは手作り率の低い世帯にみられた。(図10) これらについて、大下等の調査⁽¹⁵⁾や高橋等の調査⁽¹⁶⁾⁽¹⁷⁾、大矢等の調査⁽¹⁸⁾で、調理済み食品や惣菜の使用は栄養が偏りやすいといったイメージや、手作り品は衛生的によいというイメージが強いと報告されており、本調査対象についてもこのことがあてはまるようで、食事の栄養のバランスや安全性にこだわるものでは手作り傾向が強くなるものと推察される。

新 沢 祥 恵

図10 手作り状況と衛生配慮状況

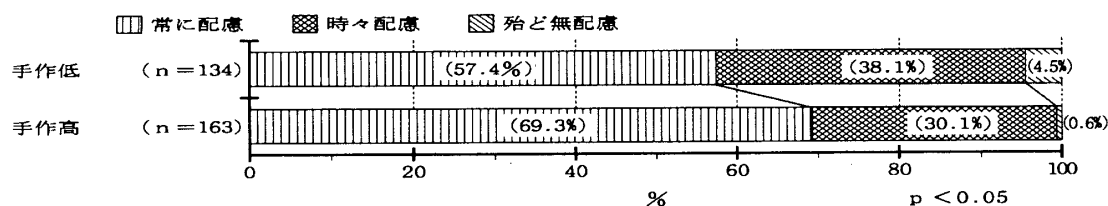


図11 手作り状況と料理伝承への配慮

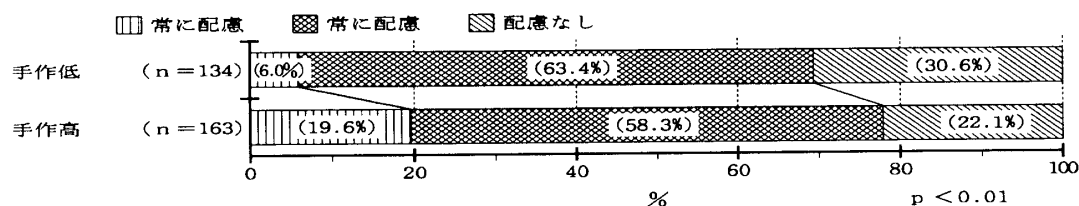


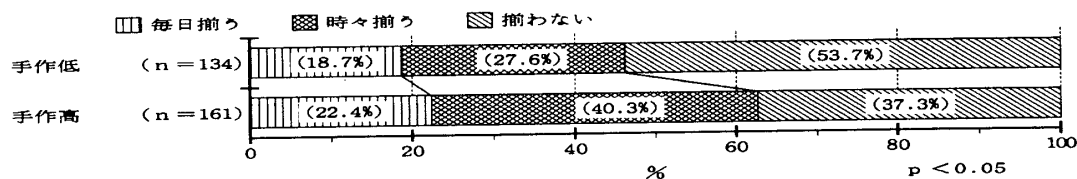
図11は「料理の伝承への配慮」との関連を示したものである。常に配慮しているものでは手作り率が高い世帯では19.3%を占めているのに対し、低い世帯では僅か6.0%となり、配慮しないものが、高い世帯で22.1%に対し、低い世帯では30.6%となっている。同様に「伝統料理や郷土料理等への興味の有無」でも手作り率の高い世帯で、常に興味を持ち、日常の食生活に取り入れるようにしているというものが多くを占めていた。食や健康への関心が比較的高いとは異なり、料理の伝承に常に配慮しているものや伝統料理等に興味を持ち日常取り入れているものの占める比率は前者が13.5%、後者が10.4%とあまり多くはないものの、これらの世帯では手作りへの意識の高いことが推察出来る。

以上、調理担当者の調理や健康などへの意識・態度に関する質問10項目のうち有意差のみられたものは半分の5項目で、献立への工夫の有無や料理情報への関心などでは明確な差はみられなかった。

3.3.3. 手作り状況と食事状況との関連

図12は「朝食の食事状況」との関連を示したものである。朝食の食事状況では44.7%が揃わないと回答しているのに対し、毎日揃うという世帯は20.7%と少なくなっているが、手作り率の高い世帯では揃わないというものが37.3%であるのに対し、低い世帯では過半数の53.7%を占めている。尚、夕食の食事状況とでも手作り率の低い世帯では揃って食べるというものが少なくなる傾向がみられたが、有意差はなかった。

図12 手作り状況と朝食状況



家庭における調理の簡便化に関わる要因

図13 手作り状況と食事中会話有無

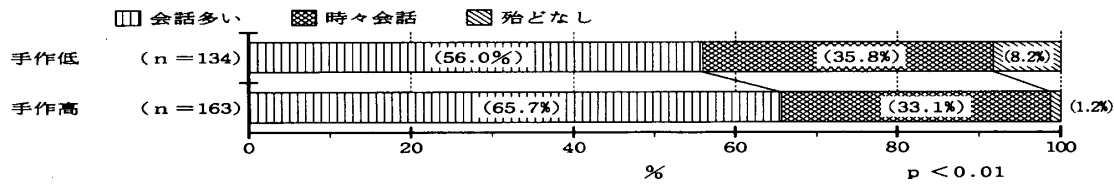
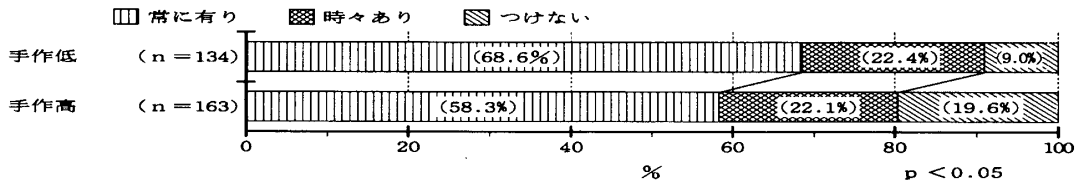


図14 手作り状況と食事時テレビ有無



次に「食事中の会話の有無」との関連をみた。手作り率の高い世帯で会話が多いと答えたものは65.7%であるのに対し、低い世帯では56.0%となり、反対に殆ど会話がないというものは、手作り率の高い世帯で1.2%に対し、低い世帯では8.2%と大きな差がみられた。(図13) 手作りの料理が食卓の会話に繋がるのか、会話のある食卓が調理担当者の手作りを促すのかは定かでないが、家族の食事に対する態度も重要であることが伺える。また、図14は「食事中のテレビの有無」との関連をみたものであるが、テレビをつけていない世帯が手作り率の低い世帯で9.0%であるのに対し、高い世帯では19.6%と多くなり、食事作法への意識の高い世帯では手作りへの意識の高いことが伺える。

以上のように手作りへの意識は調理担当者の意識も重要であるが、家族の食事への態度も無視出来ないことが推察される。

3.4. 各家庭の手作り率に関わる要因

各家庭の手作り率に及ぼす要因について検討するため数量化Ⅰ類(重回帰分析)により解析を行った。

解析にあたり、各質問項目間の回答間における分散比を求めたところ表6のようになり、この結果より分散比2以上の質問項目を選択し、手作り率を目的変数として解析を進めた。尚、「食健康への意識」では“関心はない”を“少し関心がある”にカテゴリー統合した。

表7は偏回帰係数より求めた各要因アイテムのカテゴリー数量とレンジを示したものであるが、カテゴリー数量の高いものは手作り率の高いことに寄与している。

各アイテムにおけるカテゴリー数量のレンジをみると最も大きいのは「夕食調理時間」で30分以下の世帯のカテゴリー数量が低く、手作り率の低いことが推察出来る。次いでレンジの大きいのは「食事中会話の有無」で会話のない世帯の手作り率が低く、また「食事中のテレビの有無」ではテレビをつけない世帯の手作り率が高いことが推測出来る。これらと同様に比較的レンジの大きいものとしては「献立重視傾向」や「献立の計画性」で、献立を立てる時、栄養・嗜好のど

新 沢 祥 恵

ちらも考えない世帯で手作り率が低く、常に計画的に献立を立てている世帯で手作り率が高いことが推測された。

表6 質問項目回答間の
手作り率の分散比

**p<0.01 *p<0.05	
質問項目	分散比
職業形態	0.823
家族形態	1.318
家族数	3.680
主婦就業状況	1.273
夕食調理時間	2.241
台所形式	3.269 *
食健康への関心	9.521 **
献立重視傾向	3.730 *
献立の計画性	3.692 *
献立の工夫	4.334 *
料理情報への関心	2.039
盛付方法	0.120
衛生への配慮	3.966 *
食器への配慮	1.302
料理伝承への配慮	4.001 *
伝統料理への興味	1.448
朝食状況	2.037
夕食状況	0.200
食事時間	0.906
食事中会話の有無	2.486
食事時テレビの有無	3.620 *

表7 各家庭の手作り率に対する各要因のカテゴリー数量とレンジ

アイテム	カテゴリー	世帯数	カテゴリー数量	レンジ
家族数	4人以下	122	-1.847	3.221
	5人以上	164	1.374	
夕食調理時間	30分未満	9	-8.106	8.583
	31~44分	84	0.207	
	45~59分	27	-0.872	
	60分以上	166	0.477	
台所形式	K式	113	0.157	3.746
	DK式	150	0.396	
	LDK式	23	-3.350	
職健康への関心	関心あり	203	1.299	4.476
	少し関心あり	83	-3.177	
献立重視傾向	栄養重視	107	0.616	6.758
	嗜好重視	164	0.160	
	どちらも考えぬ	15	-6.142	
献立の計画性	常に計画	27	5.616	6.244
	時々計画	100	-0.519	
	計画なし	159	-0.628	
献立の工夫	常に工夫	77	0.417	2.778
	時に工夫	175	0.276	
	工夫しない	34	-2.361	
料理情報への関心	常に関心	109	0.479	1.949
	時々関心	165	-0.427	
	関心なし	12	1.522	
衛生への配慮	常に配慮	184	1.044	4.793
	時々配慮	95	-1.746	
	配慮しない	7	-3.749	
料理伝承への配慮	常に配慮	40	4.200	5.806
	時々配慮	173	-1.606	
	配慮しない	73	1.503	
朝食状況	毎日揃う	59	0.180	2.885
	時々揃う	101	1.554	
	揃わない	126	-1.331	
食事中会話の有無	会話多い	174	-0.465	7.165
	時々会話	100	1.491	
	会話なし	12	-5.674	
食事時テレビの有無	常につける	182	-1.448	6.666
	時々つける	62	0.717	
	つけない	42	5.218	

重相関係数 $R=0.410$ 寄与率 $R^2=0.168$

4. ま と め

家庭の調理の簡便化に関わる要因について、手作り状況と家庭状況や調理担当者の意識や態度・食事状況との関連について検討した。

- (1) 調理済み食品・半調理食品の利用頻度は「台所形式」「盛付への関心」「料理の伝承」「朝食状況」「食事時間」と関連がみられた。このうち「朝食状況」では、毎日揃って食べる世帯では頻度の低い世帯が多く、「食事時間」との関連でも、食事が規則的である世帯ほど使用頻度は低い傾向がみられた。

惣菜の利用頻度と関連がみられたのは「家庭の職業形態」「主婦の就業状況」「夕食の調理時間」「献立の計画性」「料理の伝承」「朝揃って食事をするか」であるが、夕食の調理時間では短い時間の世帯ほど使用頻度が高くなり、「家庭の職業形態」では自営業世帯で、「主婦の就業状況」では有職主婦の使用頻度が高くなっている。また、「朝食状況」ではいつも揃って食事をしない世帯でよく使われていた。

- (2) 各料理の手作り状況に関わる要因を検討したところ、家庭状況で、比較的多くの料理と関わりがみられたのは「主婦の就業状況」と「夕食の調理時間」であり、「主婦の就業状況」では、手作り度の低い料理で献立出現頻度も少ない料理と関連がみられ、「夕食の調理時間」で献立出現頻度が高い料理や手作り度の高い料理と関連がであったことから。一般に調理済み品への依存が高い料理では、時間的余裕があると考えられる専業主婦に手作りする傾向があり、調理時間の短い世帯では、日常的に調理済み品を利用していると推察出来る。

調理担当者の意識との関連では「献立の工夫」と「料理伝承への配慮」で比較的多くの料理と関連がみられた。しかし「食・健康への関心の有無」「献立重視傾向」とは関連のみられる料理少なくなっていた。

食事状況との関連では「食事時テレビの有無」を除いてはどの質問項目とも関連のみられる料理が多く、食事時間が規則的で、家族揃って食事をし、食事中に会話の多い世帯ほど、手作りの度合いが高くなっており、家庭の食事形式、ひいては家族それぞれのライフスタイルとの関連も無視できないと考えた。

- (3) 各家庭毎に手作り状況を評価し、これとの関わりについて検討した。まず、家庭状況では台所形式以外は明確な関連はみられなかった。

調理担当者の意識・態度との関連では、「食・健康への意識」「衛生への配慮」と関連があり、手作り率の高い世帯では、食・健康への意識の高いもの、或いは衛生に常に配慮をしているものの比率が高くなっており、また、「献立重視傾向」でも手作り率の高い世帯で栄養を重視するものが多くみられ、調理済み品には栄養面・衛生面での信頼が小さいためと考えられる。

この他「料理の伝承への配慮」や「伝統料理や郷土料理等への興味の有無」でも料理の伝承に常に配慮しているものや伝統料理等に興味を持ち日常取り入れているものの占める比率は少ないものの、手作りへの意識が高かった。

食事状況では「朝食の食事状況」「食事中の会話の有無」「食事時テレビの有無」と関連がみられ、手作り率の高い世帯では毎日揃って食事をするもの、食事中会話があるものの比率が高く、また、食事中はテレビをつけていない家庭の比率も高い傾向がみられた。

- (4) 各家庭の手作り率に及ぼす要因について検討するため数量化Ⅰ類（重回帰分析）により解析を行ったところ、最も大きく影響していたのは「夕食調理時間」で30分以下の世帯の手作り率の低いことが推測できた。次いで「食事中会話の有無」「献立重視傾向」「食事中のテレビの有無」が挙げられ、会話のない世帯の手作り率が低く、テレビをつけない世帯の手作り率が高いことが推測され、食事中の態度も無視できないことが伺えた。

以上、いくつかの観点から、家庭における調理簡便化について検討を試みたところ、検討の角度により、これに関わる要因に多少違いはみられたが、どこでも比較的強い関わりがみられたのは、食事状況に関する部分であった。人間の食の特徴として『共食』ということがある。

新 沢 祥 恵

食の役割として、生理的意義としての栄養摂取、心理的意義としての心の満足を得ることの他に、社会的意義として、人間関係を作るという役割も無視できないものであるとすれば⁽¹⁹⁾、家族が揃って食事をするという事は、最小の社会である家族の交流を促す上で、重要な位置づけがなされる。下坂等の調査⁽²⁰⁾では家庭での共食回数が多いほど食生活の充実感が強いことや、石川等の調査⁽²¹⁾でも、家族が揃って食事をしているものは食生活の満足度が高いことが報告されている。

近年の食生活の特徴として高級化・簡便化・多様化ということが挙げられるが⁽²²⁾、豊かになり、多様な選択肢が与えられる中で個々に自由な選択が可能となっている。多種の調理済み品が出回るようになったことや、家庭の電化が進み、特に電子レンジが普及したことで家族が一定の時間に食事をしなくとも、何時でも温かい食事が可能になったことも『個食』に拍車をかけることになったものと考えられる。一方、国民栄養調査⁽⁷⁾では『個食』は栄養摂取の偏りとなる可能性のあることを示唆している。1人で食べている子供は家族揃って食べている子供に比べて摂取する食品のバランスが悪い傾向にあることが報告されており、調理簡便化傾向と同様の問題をもたらしている。

調理簡便化は一面では調理担当者の負担の軽減もあることから、合理的な選択とも考えられる。しかし、現状では、例えば国民栄養調査での調理済み食品等の使用頻度が高い世帯で栄養摂取が低くなることの報告⁽¹⁰⁾や、今回の調査でも、食や健康或いは調理への意識の低い世帯で調理済み品の使用が高くなる傾向がみられるなど、調理簡便化が食生活の向上には繋がってはいないようである。しかし、今後、調理簡便化が不可避であるとすれば、これらを視野において食事計画を工夫していくことが不可欠となる。

さらに、調理簡便化は調理担当者の意識のみならず家庭の食事状況も大きく関わっているとすれば、家庭の食生活は調理担当者のみが負うのではなく、個々人が自分自身の食生活に責任を持つことが要求される。そのためには確実な食の知識を持つことと、家族1人1人が食生活に積極的に取り組む姿勢を養うことが、より豊かな食生活の向上に繋がるものと考えられる。

参 考 文 献

- (1) 新沢祥恵：家庭における調理簡便化の実態，北陸学院短期大学紀要第28号，67-83，1996.
- (2) 日本家政学会編：食生活の設計と文化，144，朝倉書店，1992.
- (3) 足立己幸：なぜひとりでたべるの，日本放送出版協会，1983.
- (4) 足立己幸他：食生活論，医歯薬出版株式会社，1987.
- (5) 磯部真理：食べる風景，58-95，三嶺書房，1990.
- (6) 田中宣一他：食の昭和 문화史，10-38，おうふう，1995.
- (7) 厚生省公衆衛生局栄養課：昭和59年版国民栄養の現状，40-41，第一出版，1984.
- (8) 厚生省公衆衛生局栄養課：平成2年版国民栄養の現状，53-54，第一出版，1990.
- (9) 厚生省公衆衛生局栄養課：平成7年版国民栄養の現状，68-70，第一出版，1995.
- (10) 厚生省公衆衛生局栄養課：平成6年版国民栄養の現状，45-51，第一出版，1994.
- (11) 村松功雄：栄養の心理，163-223，三共出版株式会社，1985.
- (12) 中村喜代美：本学学生の調理教育に関する研究(1)，北陸学院短期大学紀要第26号，1994.
- (13) 新沢祥恵他：家庭用調理器具の所有と使用に関わる要因，北陸学院短期大学紀要第24号，129-158，1992.

家庭における調理の簡便化に関わる要因

- (14) 石毛直道他：昭和の食，124－125，ドメス出版，1990.
- (15) 大下市子他：調理済み・半調理済み食品の利用とそのイメージ，栄養学雑誌Vol.47 No.6，273－282，1989.
- (16) 高橋洋子他：調理済み・半調理済み食品の利用状況とイメージ（第1報），食生活研究Vol.15 No.2，30－39，1994.
- (17) 高橋洋子他：調理済み・半調理済み食品の利用状況とイメージ（第2報），食生活研究Vol.15 No.3，25－37，1994.
- (18) 大矢靖子他：外食，調理済み・半調理済み食品，手作り料理のイメージとその実態に関する調査研究（第1報），日本家政学会誌Vol.47 No.6，563－572，1996.
- (19) 川端晶子他：調理学，5－6，建帛社，1997.
- (20) 下坂智恵他：青年女子の食意識と家事行動に関する研究，日本家政学会誌Vol.45 No.12，1103－1114，1994.
- (21) 石川雅子他：女子短大生の食生活と食行動¹⁾，食生活研究Vol.17 No.5，36－44，1996.
- (22) 時子山ひろみ：食生活の高級化・簡便化・多様化と健康志向，食糧・栄養・健康，65－71，医歯薬出版，1991.

附記 本研究の一部は1995年10月に開催された第42回日本栄養改善学会及び1997年10月に開催された第44回日本栄養改善学会において発表した。